

+人とのかかわりを大切にする子 自分で考えて行動する子 心身ともにたくましい子

横浜市立永田小学校



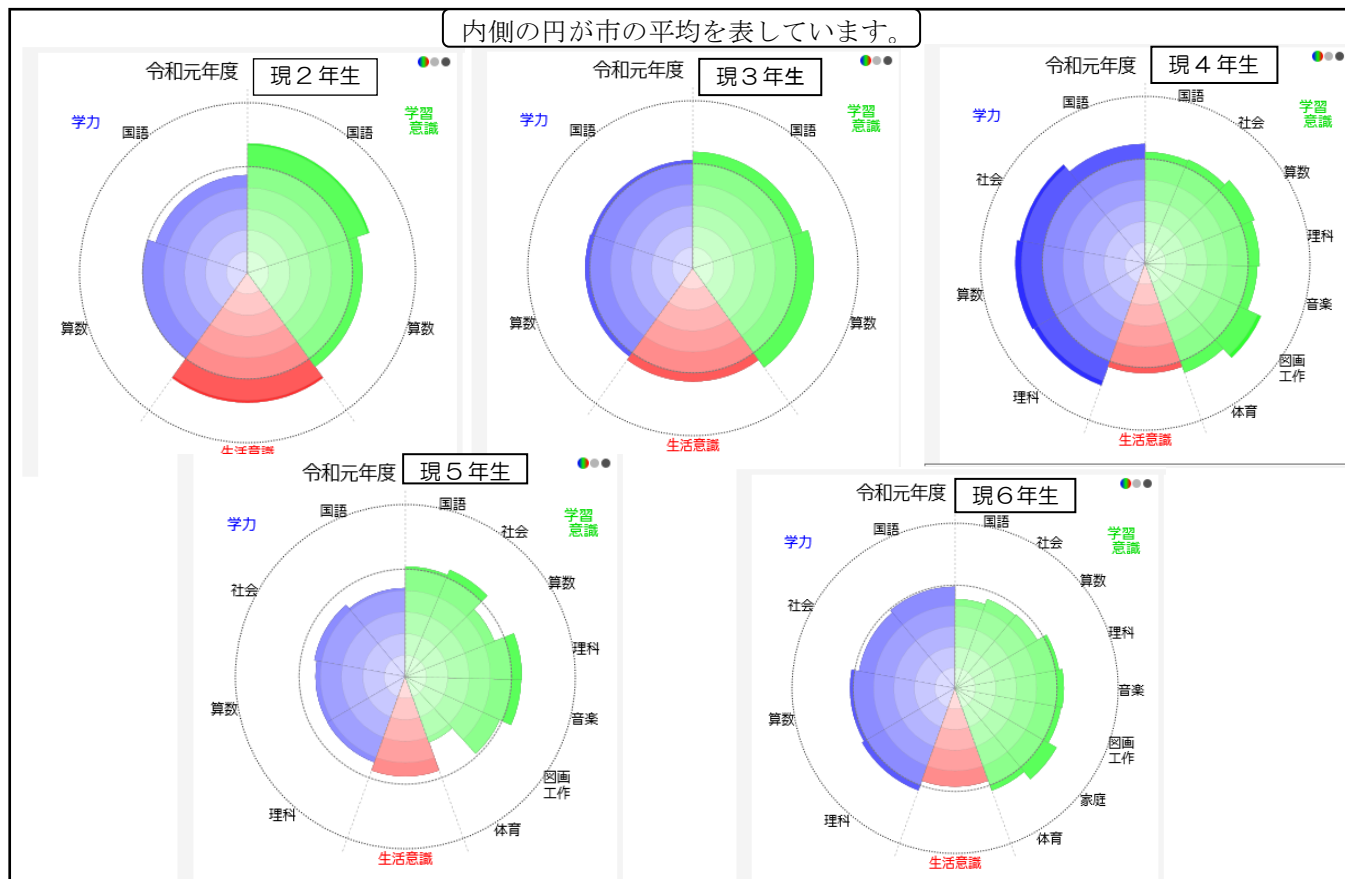
学校だより

特別号

令和2年6月1日（児童数配付）

平成31年度（令和元年度）横浜市学力・学習状況調査結果のまとめ

今年2月に行われました横浜市学力・学習状況調査、生活・学習意識調査の本校の傾向や改善点についてお知らせいたします。



（現2年）

国語	成果と課題	「話す・聞く能力」の観点で、市の平均を上回りました。特に、「大事なことを落とさないようにしながら聞くこと」において、市の平均を4ポイント上回るという成果が見られました。一方で、「書く能力」は、市の平均を2.4ポイント下回り、「言語」の領域の知識・理解・技能は、8ポイント近く下回っています。大事なことを落とさずに聞くことや興味をもって聞き、質問することができる一方で、句点の打ち方や拗音の表記、助詞の使い方という言語領域の力が正しく身に付いていないことが原因となり、身の回りの出来事や自分の考えを文章で書く際に課題が生じているようです。また、登場人物の行動を基に物語の内容をおおまかに捉える力や場面の様子の叙述を基に登場人物の様子を想像したりする力も市の平均を10ポイント以上下回っていました。
	改善に向けて	言葉や文の表記、助詞の正しい使い方の定着においては、日々の授業で繰り返し指導をした上で、朝学習や宿題で定着を図っていきます。読書活動では、本の内容を挿絵から想像して楽しむだけでなく、文章を丁寧に読み取りながら最後まで根気よく読み通す力を養っていきます。
算数	成果と課題	「知識・理解」「数学的な考え方」の2観点で市の平均をわずかに上回りました。「図形」「数量関係」という区分で見ると、市の平均を1～3ポイント上回っています。特に「数量関係」では、式が表す場面を考え式に合った文を選ぶ設問において、市の平均を9ポイント近く上回ることができました。しかし、「技能」の観点では、全ての領域において市の平均点を下回っていました。
	改善に向けて	日々の授業や宿題などで計算問題等につこつこ取り組ませるなど、引き続き基礎・基本の定着を図ります。さらに、実際にものの長さを様々な方法で比べたり、位取り板にブロックを並べて位取り記数法の原理を考えたりするなど、具体物を用いた活動を多く取り入れるようにしていきます。

(現3年)

国語	成果と課題	「話す・聞く」「書く」が市の平均を上回りました。一方で、「読む」「知識・理解・技能」は市の平均を下回っていました。「読むこと」では、「登場人物の行動や会話に着目して、場面の様子を想像すること」、「文章の中の大事な言葉や文を書きぬくこと」これらの設問は、市の平均を下回っていました。「知識・理解・技能」では、漢字を書くことは市の平均を上回りましたが、漢字を読むことが平均を下回っていました。また、「かぎの使い方を理解して文章の中で使うことができる」項目が市の平均から大きく下回っていました。「基礎・基本」「活用」という区分で見ると、「基礎・基本」「活用」ともに、市の平均を上回っています。
	改善に向けて	文章を書くときに、順序立てて文を書くために、「はじめ・中・おわり」やつなぎ言葉等を意識した学習を取り入れていきます。また、文章を読むときは、登場人物の行動や会話を確認しながら場面の様子を想像したり、大事な言葉や文を見つけたりする学習をしていくようにします。音読に力を入れることで、文章の理解を深め、漢字の読みの定着を図ることができるようにしていきます。
算数	成果と課題	「知識・理解」「数学的な考え方」の2観点で市の平均を上回りました。一方で、「技能」は市の平均を下回っていました。「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」という区分で見ると、すべての区分で市の平均を上回っています。知識・理解がよく身につけている一方で、「技能」の領域の方眼を用いて直角三角形を作図することやかけ算九九、グラフの読み取りは市の平均を下回ってしまいました。「基礎・基本」「活用」という区分で見ると、「基礎・基本」「活用」ともに、市の平均を上回っています。
	改善に向けて	引き続き、宿題や朝の学習の時間を利用して継続してかけ算の習熟を図っていきます。また作図の学習では、時間を十分に取って、ものさしを使った作図や3年生で新しく学習するコンパスを使った作図の習熟を図っていきます。グラフなど資料の読み取りに関しては、日常生活や理科や社会など他教科と結び付けて、数量を分類整理する機会をたくさんもち、グラフや表に表すことよさを理解したり正確に読み取ったりできるようにしていきます。

(現4年)

国語	成果と課題	国語では、「辞書の使い方」、「段落の役割の理解」、「段落相互の関係などに注意して書くこと」については市の平均を上回りました。漢字の読み書きは、平均を大きく上回りました。一方で、「話すこと・聞くこと」「読むこと」については市の平均を下回ってしまいました。
	改善に向けて	読む力の向上のために、読書量を増やす取り組みとして読書タイムの充実や学校図書館の活用、音読の宿題の継続をしていきます。また、授業の中でも主人公の心情を表す言葉に着目したり、大切な言葉や文を見つけたりする学習を取り入れて、理解を深めていけるようにします。また、今後も漢字の定着を図っていくよう、家庭学習の継続にご協力お願いいたします。
算数	成果と課題	基礎問題・活用問題ともに全体的によく習得しており、四則計算は、正確に計算できる力が育ちました。はかりを用いた測定や、数量や図形についての表現や処理に関わる技能がよく身に付いていました。一方、□を用いて問題場面の通りに立式し、数量関係を的確に捉えることに課題が見られました。
	改善に向けて	活用する力をつけていくためには、日々の学習で、自分の考えを表すことができるように時間を十分に取ったり、ペアや小グループで自分の考えを発表する機会を増やしたりしていくことで、筋道を立てた考えができるよう指導していきます。
社会	成果と課題	基礎問題・活用問題ともに、全体的によく習得できていました。特にまち調べや、まちで働く人々について市平均を上回りました。一方で、昔の暮らしに関する理解が少し下回ってしまいました。
	改善に向けて	社会科学習において、身近なことから資料の読み取りに興味をもてるようにしていきたいと思います。また、自分なりに分析したことを友達と交流する機会を設けていきたいと思います。
理科	成果と課題	磁石、電気、光の性質、風やゴムのはたらきなどほとんどの領域で市の平均を超えていましたが、生き物の領域だけは市の平均を下回りました。
	改善に向けて	実験等で使う用具については、繰り返し使用することで正確に扱えるように指導していきます。また、実験を充実させ、ものの性質について実感を伴って理解できるように指導していきます。体験を大切に、実験から分かったことを実生活の中での事象とつなげて考えられるようにします。

(現5年)

国語	成果と課題	基礎問題、活用問題ともに、市の平均通過率を下回っていました。特に書く能力、読む能力に課題が見られました。書くことは約10ポイント、読むことは約5ポイント市の平均を下回りました。
	改善に向けて	書く能力では、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて文を書くこと、読む能力では、目的に応じて文の中心となる言葉や文を捉えながら読むことに課題がありました。授業の中で、文章を読んだり書いたりする際には、どのような目的で読んだり書いたりするのか捉えられるように、指導していきます。
算数	成果と課題	計算の技能は市の平均通過率をわずかに上回っていました。特に、数と計算の区分は3ポイント上回っていました。しかし、数学的な考え方や知識・理解は平均を下回っていました。
	改善に向けて	学習の中でじっくり考える時間を確保できるようにしていきたいと思います。また、答えを導き出す過程を大切に、様々なやり方で求めたり、友達の意見を聞いて参考にしたりするなどして、指導していきたいと思います。
社会	成果と課題	基礎問題や活用問題ともに市の平均通過率を下回っていました。都道府県に関しては、平均を2ポイント上回っていましたが、廃棄物処理・水道・消防・開発・神奈川県は、平均を下回っていました。
	改善に向けて	資料の読み取りを一つひとつ丁寧に、資料から分かったことをノートに書いたり、発表したりできるような時間を設けていきたいと思います。
理科	成果と課題	基礎問題、活用問題ともに、市の平均よりわずかに下回っていました。金属、水、空気と温度の技能が市の平均を上回りました。思考・表現に関しては、市の平均の約4%下回っていました。
	改善に向けて	正答率が高かった問題の傾向は、実験など体験を通したものでした。しかし、思考・表現の単元が下回っています。実験・観察の結果や考察を適切にまとめるように指導していきたいと思います。

(現6年)

国語	成果と課題	「書くこと」は市平均を上回り、「言語」についてはほぼ平均といえる正答率でした。昨年度の課題であった「書くこと」についての取組の成果が表れた結果だと思えます。一方で、「読むこと」や「話すこと・聞くこと」は平均を下回りました。
	改善に向けて	「話すこと・聞くこと」については、自分が聞こうとする目的や意図に応じて、話の内容を捉えたり、相手からより適切な情報を引き出すためにふさわしい表現を考えて質問したりすることができるよう指導していきます。「読むこと」については、目的に応じて多様な文章を読み、自分の考えをまとめることができるよう、活用力を高めていけるようにします。教材文だけでなく、並行読書することで様々な文章と出合えるようにしていくようにし、学校図書館をさらに活用するなどして、読書量を増やしていけるようにします。引き続き言語能力の確実な習得を目指して日々の取組を行っていきます。
算数	成果と課題	基礎・基本の問題は市の平均を上回っていました。小数や分数のかけ算やわり算、引き算などの計算の仕方を理解することができています。一方で活用問題は市の平均を下回っています。既習事項を生かして自分なりに問題を解決したり、複数の考え方を合わせて解答を導いたりする問題に苦手意識があるようです。
	改善に向けて	計算タイムや家庭学習などを利用して反復練習を行い、確実に基礎・基本の学習内容を身に付けることができるよう取り組んでいきます。基本的な問題からだんだん難易度をあげていくことで、抵抗感をあまり感じることなく様々な問題に触れることができるようにします。授業で様々な解法や考え方を取り上げることで、学び合うことができるようにします。
社会	成果と課題	「国土」「水産業」の領域では、市の平均を上回った観点がありました。「農業」「工業」「情報」では正答率が市平均を下回りました。資料を正しく読み取ったり、いくつかの資料を多面的に捉えたりすることに課題があります。
	改善に向けて	教科書や資料集を活用して学習を行うことで、色々な資料に触れる機会が得られるようにします。様々な写真やグラフ・資料をもとに、多面的な見方・考え方ができるように、資料を読み取る力を付けていきます。学習の中で、資料から分かることを整理し、自分の考えをもったり、グループや全体で共有したりすることで多面的な見方につなげていきます。
理科	成果と課題	基礎問題では、市の平均を上回っていましたが、活用問題は、市の平均より下回っていました。アサガオとヘチマについてめしべとおしべの見分け方が分かる児童が45%でした。グループ実験や、一人一実験で学習した「振り子の運動」や「電流の働き」では、問題によっては78%の正答率でした。
	改善に向けて	「実験・観察が好き、どちらかといえば好き」と答えた児童が92.4%と多く、興味・関心が高いことが分かります。実験・観察を行う時には、予想を大切に、自分の考えを確かめるために意欲をもって取り組めるよう指導します。実験・観察結果を適切にまとめ、結果から分かることを考え、話し合う活動にも時間を十分に確保するなど、学習内容の定着を図っていきます。

教科学習について（生活・学習意識調査クロス集計から）

二年	<p>「勉強が好き・どちらかといえば好き」と答えた児童は93%で、市の平均より、5.6ポイント高くなっています。「学校の授業が分かりやすい・大体分かる」と答えた児童も79.2%でこちらも市の平均より11.7ポイントも高くなっています。しかし、そのように答えた児童でも、正答率を見ると市の平均より1.3~3.2ポイント低くなっています。具体的などころでは、「授業でノートを丁寧に工夫して書いている・どちらかといえば書いている」児童は88.2%、「授業では自分の考えを発表している・どちらかといえばしている」と答えた児童は76.2%と、いずれも市の平均より2~3ポイント高く、学習意欲がうかがえます。さらに、「自分の考えをよく発表している・どちらかといえば発表している」児童は、発表していない児童より正答率が11ポイント高く、発表することによって理解を深めていると考えられます。生活科の勉強は「好き・どちらかといえば好き」と答えた児童は97%で大変多く、英語活動の時間が「好き・どちらかといえば好き」と答えた児童も96%と高い比率を占めました。様々なことに関心をもって取り組むことができる本校児童のよい面が窺えました。今後、この学習意欲を学習成果にも結びつけていくことが大事と思われます。意欲は市の平均より高いのに、正答率は市の平均と比べて低めという逆転が起きている「自分のしたことや考えたことを順序に沿って書く」力や、「順序や様子に気を付けて読む」力を伸ばしていけるよう、授業改善を図っていきます。そのためにも、毎日の読書や10時前の就寝などを生活リズムに組み込んで、できるところから取り組んでいけるようご家庭にご理解ご協力をお願いしていきます。</p>
三年	<p>「勉強が好き・どちらかといえば好き」と答えた児童は86%で、「嫌い・どちらかという嫌い」と答えた児童より、正答率が約8%高くなっています。「授業ではノートを丁寧に書いている」、「授業では自分の考えを発表している」児童は市の平均より多く、「ノートを丁寧に書いていない」、「発表していない」児童より正答率は10%以上高いです。一方で、「どちらかという丁寧に書いていない」「どちらかという自分の考えを発表していない」児童の正答率が高く、学習内容をよく理解しているが、意欲が低めという児童も見られました。</p> <p>学習に対する丁寧さを今後も認めて励ましていき、学習した内容や自分の考えを文章や図や絵など様々な方法で表現できるよう意識して指導していきます。また、友達と意見や考えの交流をするよさや楽しさを感じられるような授業を心がけていきます。</p>
四年	<p>算数科の学習では、「自分の考えを数や式、言葉で説明しようとしていますか。」に対して、「している」と答えた児童は「していない」と答えた児童より20.7%正答率が高くなっています。また、「授業で勉強したことをふだんの生活の中で使おうとしていますか。」に対して、「している」と答えた児童は「していない」と答えた児童より13.6%正答率が高くなっており、どちらも市の正答率の平均より高くなっていました。今後も授業の中で自分の考えを式や言葉で表現したり、友達と考えを交流し、考えを練り上げたりしていく時間を確保していきます。そして授業の中で算数の学習と実生活の結びつきが意識できるよう工夫していきます。</p> <p>また、「一生懸命取り組んでいることがある」「ものごとを最後までやりとげてうれしかったことがある」と答えた児童の正答率が、「ない」と答えた児童よりも約25~30%高かったことから、今後も児童の興味関心を高め、自分たちで問題を解決していく楽しさや達成感のある授業を心がけていきます。</p>
五年	<p>「勉強は好き・どちらかといえば好き」と答えた児童は全体の約70%、「勉強は嫌い・どちらかといえば嫌い」と答えた児童は約30%でした。「勉強は好き・どちらかといえば好き」と答えた児童の4教科総合正答率は、そうでない児童の正答率よりも約8%高くなっていました。学校生活に関する調査と、4教科総合平均正答率の関係を見ていくと、「授業でノートをていねいに工夫して書いている」と答えた児童の正答率は、そうでない児童と比べて、約15%高くなっていました。ノートを丁寧にただでなく自分の考えや思いを、工夫してノートにまとめられるよう日々の指導をしていくことを意識していきます。また、生活に関する調査では、8時間以上睡眠をとる児童は、睡眠時間が6時間未満の児童と比べて、4教科総合平均正答率が約17%上回りました。その他の調査では、1日にスマートフォン等を操作して、インターネット等を行う時間が「1時間30分より多い」児童の4教科総合平均正答率は48%、「ほとんどしていない」と答えた児童の4教科総合平均正答率は67%ということが分かりました。このようなことから、学校と家庭の連携を図り、子ども達の学習環境をサポートしていくことでより学力を上げていけると感じました。</p>
六年	<p>「勉強は好き」と答えた児童の正答率は約72%、「嫌い」と答えた児童の正答率よりも約30%高くなっていました。4教科全てで「勉強が好き」と答えた児童の割合が市の平均を超えました。これからも「勉強が好き」教科学習の特性を生かし、楽しく分かりやすい授業づくりを工夫していきます。一日に、インターネットやメールを30分くらいしている児童の4教科の平均正答率は約62%、1時間ぐらいいている児童は約53%となっています。1日の生活を見直し、それぞれ約束を決めて守っていくことができるよう励ましていきます。</p>

生活・学習意識調査から見えてくる学年児童の実態

	学習の関心度	睡眠	朝食	読書・その他
二年	勉強が好き・どちらかといえば好きと答える児童が93%と市の平均を上回っています。授業ではノートを丁寧に工夫して書いているという児童、自分の考えを発表しているという児童がともに市の平均を上回っています。このことから、学習への意欲が高いことが分かります。全員が国語や算数の学習が大切だと思っており、勉強したことを生活の中で使おうとする意識も市の平均を上回りました。	9時半頃までに就寝する児童は約84%です。ほとんどの児童が早寝早起きの習慣を身に付けることができているようです。この割合は市の平均とほぼ同じです。	必ず食べると答えた児童が93.1%でした。この割合は市の平均を12ポイントも上回っています。朝の食事をきちんと取り、午前中の活動に必要なエネルギーをしっかりと蓄えられていることが分かります。	1日に30分以上の読書をしていると答えた児童は51%を超えました。この読書時間は、市の平均を5ポイントほど上回っています。好んで学校図書館を利用している児童も多く、図書ボランティアや司書教諭による読み聞かせや授業の中で、本にふれる機会を多く設けた成果として、本好きな児童が育っていることが分かります。約92%の児童が、自分から挨拶を「している・どちらかといえばしている」と答え、学校を安心できる場所と考えている児童も97.1%を占めました。どちらも市の平均を大きく上回っており、挨拶から始まる学校生活を肯定的に捉えている児童が多いことが分かります。
三年	勉強が好き・どちらかといえば好きと答える児童が約86%いました。ほぼ市の平均と同じでした。また「国語の授業は好き、どちらかといえば好き」と答えている児童が約85%おり、市の平均を上回っていましたが、「算数の授業は好き、どちらかといえば好き」と答えた児童は78.5%にとどまり、市の平均を下回っていました。算数の学習を実生活と結び付けて考えたり、友達と考えを交流し合ったりする学習を大切に、学習の楽しさを感じられる授業をしています。	9時半頃までに寝る児童は86%を超えています。ほとんどの児童が早寝早起きの習慣を身に付けることができているようです。この割合は市の平均よりやや上回っています。	必ず食べると答えた児童が、83.9%でした。この割合は市の平均を下回っています。朝の食事をきちんと取って、生活のリズムを整えることを大切にしたいです。	1日に30分以上の読書をしていると答えた児童は約41%でした。一方で、34%ほどの児童がほとんどしていないと答えています。これは、市の平均より7%下回っています。授業の中で本に触れる機会を多く作り、自分から本に親しもうとする意欲を育んでいきます。また、90%の児童が、自分から挨拶を「している・どちらかといえばしている」と答え、まちな行事に参加を「している・どちらかといえばしている」と答えた児童も70%いました。どちらも市の平均よりやや多いです。地域の方と積極的にかかわろうとする姿が見られます。
四年	「算数の授業で勉強したことをふだんの生活の中で使おうとしていますか。」に対して、「している」と答えた児童は「していない」と答えた児童より13.6%正答率が高くなっており、どちらも市の正答率の平均より高くなっていました。今後も授業の中で自分の考えを式や言葉で表現したり、友達と考えを交流し、考えを練り上げたりしていく時間を確保していきます。	8時間以上の睡眠をとっていると答えた児童は、全体の88.5%でした。成長期には、1日に10時間の睡眠が必要と言われています。今後も、早く寝ることの大切さを指導していきます。	必ず朝食を食べる、だいたい食べると答えた児童は93.6%でした。午前中、集中して学習や活動に取り組むためにも、朝食をしっかりと食べることが大切です。早寝早起きの習慣を身に付け、しっかりと朝食を食べて登校できるよう、引き続きご協力をお願いいたします。	30分以上読書をしていると答えた児童は34.2%で市の平均47.2%よりかなり少なかったです。読書をほとんどしていないと答えた児童は40.5%と市の平均28.7%より高く、読書量が少ないと分かります。日々の学習の中で、関連する本を紹介するなど、児童の興味を惹く心がけていきます。また、学校図書館を利用する機会を増やしたり、読書タイムを活用したりするなどして読書量を増やすことで読解力の向上を目指していきたいと思えます。あいさつについては、「自分からしている・どちらかといえばしている」と答えた児童が市の平均を上回りました。人のかかわりに積極的な姿勢が見られます。
五年	勉強は「好き・どちらかといえば好き」と答える児童は70%、授業が「よく分かる・だいたい分かる」と答えた児童は75%でした。どちらも市の平均を約5%下回る結果です。その一方で、各教科の勉強は、大切だと思っている児童が約9割でした。子ども達の前向きな気持ちを大切にしながら、どの教科においても分かりやすく、自分の考えをもって取り組める授業を行っていきます。	「8時間以上」と回答した児童は88%と市の84.8%に比べて、やや上回っていることが分かります。引き続き、成長期における睡眠の役割や大切さを指導していきます。	「必ず食べる」と回答した児童は90%でした。横浜市の85.1%と比較するとやや上回っています。これからも学習や運動に元気に取り組み、充実した学校生活を送れるようバランスの良い食事を心がけてほしいです。	学校図書館に行くことが好きですかという問いに対して、「好き・どちらかという好き」と答えた児童は、約86%と高い割合になっています。読書に進んで親しもうとする姿勢が身に付いている児童が多くいると考えられます。また、1日に30分以上の読書をしている児童の割合は、全体の5割、ほとんどしていないと答えた児童は約2割でした。読書の習慣が身に付いている児童が多いので、5年生でも続けていけるよう支援していきます。
六年	国語・算数・理科・社会などの「勉強が大切だ」「生活や社会に出て役立つ」と感じている児童が、市の結果を上回っています。また、学校の授業が分かりやすいと答えた児童が78.3%でした。一方で、「勉強が好き・どちらかといえば好き」と答えた児童は、54.3%でした。今後も、基礎基本を確実に身に付けられるよう、読み・書き・計算を中心に繰り返し取り組み、学ぶことの楽しさを実感し、意欲につなげていくことができるよう指導していきます。	8時間以上の睡眠をとっている児童は78.3%で、昨年度と比べると約10%少なくなっています。学年が上がり生活スタイルも変化があると思いますが、工夫して睡眠時間の確保ができるよう指導していきます。	84.8%の児童が、「必ず食べる」と答えました。ご家庭のご協力のおかげで、昨年度の調査と比べて5%も多くなっています。今後も、バランスの良い食事を心がけることができるよう、よろしく願いいたします。	1日に「30分以上」読書している児童は約38%でした。一方「10分ぐらい」と答えた児童が43.5%で、読書習慣について二極化の傾向が見られます。読書をほとんどしていない児童は0%のことから、全員が読書に親しもうとしていることが分かります。「学校図書館に行くことが好き・どちらかといえば好き」と答えた児童は72.8%を占めるため、司書教諭のサポートなどを受けながら本と接する機会を増やしていき、読書活動の充実を図りたいと思えます。

